

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270800970		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら市川妙典 3Fユニット		
所在地	千葉県市川市塩焼4-14-22		
自己評価作成日	平成23年10月28日	評価結果市町村受理日	平成23年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	2011/12/2

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様主体の生活に力を入れている。 自治会行事には積極的に参加をし、地域の一員であるという意識が持てるような支援を心がけている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「第2の我が家だと思っていただける安心で安全、笑顔あふれるホーム」を3年後のホームのあるべき姿として掲げ、平成23年度年間目標として「地域との交流を大切にし、受け入れるだけでなく表に出るケア」を掲げている。今年度は職員体制も変わり、新たなスタートを切る節目の年となったが、新ホーム長、新ユニットリーダーを中心にホームで掲げた目標達成に向け前向きに取り組む姿勢が確認できた。日々の支援では、利用者が率先して生活に参加できるように支援するほか、利用者の要望に応じ、行ってみたい場所に個別でお連れするなどの個別支援も取り入れ生活の幅を広げている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年間目標や月間目標を掲げ、地域とより密になるように協力して支援している	事務所内に「年間目標」、「月次運営目標」、「2011年度運営方針」を掲示している。毎月初めにリーダー会議を開き、前月の「月次運営方針」の取り組み状況や当月の確認を行い、職員全体会議の場で目標の周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中で酒屋やスーパーに毎日買い物に出かけ、地域交流を図っている	地域とのつきあいについては、地域行事としてゴミゼロ運動、餅つき大会、運動会に利用者と一緒に参加をし交流を深めている。また、回覧板で地域情報を収集し、利用者と共に参加できる活動には前向きに参加するよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中でグループホームの存在を知ってもらえるように自治会行事の中で説明し、理解を求めた。大きな一歩だと思える		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、サービス向上に活かすようにしている	運営推進会議は2か月に一度定期的を実施している。会議では、自治会長、地域包括支援センター職員が参加をし、ホームの防災対策、外部評価結果報告のほか、地域からの情報を収集し、日々の支援に反映できるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係を築けるように取り組んではいるが、十分とは言えない	市の担当課との連携に関しては、具体的な連携とまでは至っていないが、地域包括支援センターとは運営推進会議を通じて意見交換を図り、利用者の困難ケースの相談等日頃から協力できる体制を築いている。	今後に向けては、運営推進会議の議事録を持参する等、市の担当課との情報共有に努め、連携体制が強化されることに期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修を通じ、身体拘束についての知識向上を図り、ケアの中に落とし込んでいる	身体拘束廃止に向けての取り組みとしては、ホーム内において「身体拘束廃止」に向けた研修を取り入れ、職員の理解を深めている。玄関の鍵はオートロックではあるが、利用者が外出を希望する際には、施錠を外し外出できるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル等の確認、研修を通じて、常に意識している		

グループホームきららし市川妙典(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修等にて学ぶ機会を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホーム長から説明、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会や運営推進会議を通じて、意見や要望を伺っている	ホーム内外の苦情窓口は、重要事項説明書に明記し、契約時に家族に説明している。また、ホーム内には意見箱を設置しているほか、年2回家族交流会を開催し、家族からの意見を収集しサービスに反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時面談を行ったり、親睦会を通じて自由な意見交流の場を設けたりしている	職員からの意見に関しては、毎月の全体会議やユニット会議時に意見を収集しているほか、目標管理シートに基づいた個人面談を定期的実施し、職員からの意見や要望を収集している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の目標管理シート等を記入し、把握に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外問わず、研修参加が出来るように支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外ではあまりないが、研修等を利用して交流が持てるように努力している		

グループホームきららし市川妙典(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の面談を密に行い、少しでも安心してきららしでの生活が送れるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時等に要望等を伺い、努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に連絡、相談ができるような関係づくりを行い、相談できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人主体の日々の支援ができるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や本人の要望を聞き、支援に反映させている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会が自由にできるように常に受け入れる体制が整っている 今後もよりよくしていきたい	ホーム入居後においても、馴染みの人や場所との関係が途切れないように、自治会行事へ参加し地域の方との交流を継続しているほか、地域の商店の利用等、これまでの関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を把握して職員も加わってより良い関係が持てるように支援している		

グループホームきららし市川妙典(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も連絡等取れるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中や行事等で何が楽しいのか、どう過ごしていきたいかの把握に努めている	利用者からの意見や要望は日々の会話からの収集のほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、利用者一人ひとりの課題を抽出し、利用者の状態に即したケアプランの作成につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用して把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録や、モニタリング、アセスメントを通じて現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や本人の意向や支援方法について話し合ったり、担当者会議を通じてよりよい介護計画になるように努めている	ケアプランは原案を作成後、職員からの意見収集、家族への説明を経て本プランを作成している。作成にあたっては、職員、家族の要望を踏まえており、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にて情報の共有を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なるべく柔軟な対応ができるように努めている		

グループホームきららし市川妙典(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパー等に必ず利用者とともに買い物に出かけている。今後は地域サロン等の活用も視野に入れていきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば施設利用前からの主治医への受信を支援している	ホームの提携先医療機関以外を希望する方は、これまでのかかりつけ医を継続する事も可能である。ホームの提携先クリニックとは24時間連携が可能であり、体調変化時迅速に対応できる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携記録を通じて報告、相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との連携の中で、生活の変化や気づきを報告し、管理者を中心として面会をし、病院関係者との情報交換や、ご家族との連絡を密にしているが、そうした場合に備えて関係づくりまでは行っていない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族や主治医、介護職員とで話し合いの場を設け、方向性を定めてはいるが、まだまだ問題の多い課題であると思う	「重度化した場合の対応に関わる指針」において、重度化や終末期に向けた方針を明確にし、「医療連携体制加算同意書」に同意を得ている。重度化や終末期に向けた方針は契約時に説明し、早い段階から方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時にAEDの使用方法等の説明を行っているが、応急手当等の知識はバラバラである		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練、また、月1回のユニット毎での避難訓練を通じて備えている。今後は地域の方にも訓練に参加して頂けるような関係づくりを自治会長を通じて行っていきたい	年間2回のホーム全体での防災訓練を予定しているほか、毎月各ユニットごとの避難訓練を実施するよう努めている。地域の協力体制に関しては、今後自治会長とも連携し体制を整備していく予定である。	ホーム全体での合同避難訓練について予定通り実施すると共に、近隣との協力体制の強化も今後期待したい。

グループホームきららし市川妙典(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての気持ちを忘れずに、関係性を大切に言葉かけを意識している	利用者への声かけに関しては、日々の申し送りやユニット会議を通じて、振り返る機会を適宜持ち、不適切な声かけにならないよう職員全体で日々注意を払い取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	指示するのではなく、自己決定できるような声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活に沿った職員の動きになっている。なるべく希望に添えるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる人はご本人の好みを大切にできるような支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒になって支援ができている	食事に関する支援では、準備から後片付けに至るまで、利用者にも参加を促し一緒に取り組めるように支援している。買い物も近隣のスーパーを利用し日々利用者と一緒に出かけている。外食なども適宜取り入れ、食事を楽しむ工夫もされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活リズムパターンシートを用いて把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるだけ毎食後行えるようにしている 義歯の方は定期的にポリドントしている		

グループホームきららし市川妙典(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターンシートと用いて、排泄パターンを把握し、自立に向けて取り組んでいる	利用者の排泄状況に関しては、「パターンシート」に記入し、一人ひとりの状況を把握している。日中は、声かけや定時の誘導により、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や果物を多くとるようにしている。また、散歩や体操をとりいれて体をよく動かすようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があれば毎日入れるように支援している	入浴に関しては、利用者のリズムを考慮し、本人の希望も踏まえながら入浴できるように支援している。時間帯を決め入浴する利用者もいるが、希望があれば柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温管理、昼寝、季節に合った寝具の選択をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情をファイリングし、情報の把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を意識した生活支援が行えている。毎日の晩酌や野菜作り等も行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望を把握し、非日常ケアへの取り組みが行えるように努力している	年間行事計画を策定し、戸外に出かけられるよう支援しているほか、利用者の要望に応じ、行ってみたい場所に個別でお連れするなどの個別支援も取り入れ、日常的に外出できるよう支援している。	

グループホームきららし市川妙典(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で施錠し、管理はしているが、なるべく自由に使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	室内に電話をひいたり等している方もいる。年賀状等で手紙がやり取りできるように支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が常に清潔であるように掃除殺菌等を行っている	利用者が集うリビングには、季節の花を飾るなど季節感を感じられる雰囲気とし、華やかな装飾は避け、利用者が居心地良く暮らせるようにしている。リ便儀や廊下には歩行の妨げになるものは放置せず、安全性にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓、畳、ソファがあり、各自が安心できる場所で過ごせるような工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に慣れ親しんだ家具をお持ちいただけるように声掛けしている	居室においては、利用者の馴染みの物を持ちこめることをお伝えし、居心地良く過ごせるように配慮している。居室内の掃除も定期的に行い衛生面にも配慮し快適に利用できるように取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物自体はバリアフリーとなっているが、すべてが安全だとは言えない		